

須貝 旭 SUGAI Asahi

2025 12.20 sat ... 2026 1.18 sun

12:00...19:00 — 観覧無料
月曜・火曜休廊 祝日は開廊、翌平日休廊
——12.27(土)…1.6(火)冬季休廊

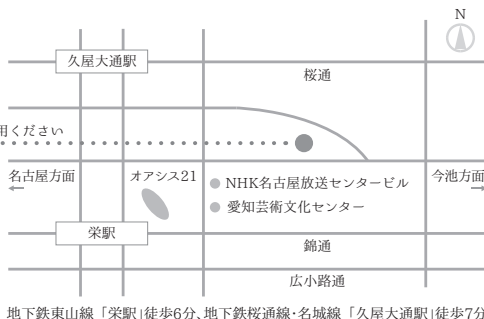
トークイベント
12.20(土) 17:00...18:00
塚本麻莉(高知県立美術館 主任学芸員)×須貝旭

落葉抄 RACVYOXO

SAKURA
AUA GALLERY

〒461-0005
名古屋市東区東桜 1-9-19
成田栄ビル地下1階
TEL:052-212-9316
aau-sakura.com

エレベーターをご利用ください
地下1F



主催 愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学 〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 1-114
助成 公益財団法人あいちFG教育文化財団 お問合せ 愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課
TEL:0561-76-2873 (平日9:00~17:30)
https://www.aichi-fam-u.ac.jp/

NOMURA 野村財団

協力



愛知県立芸術大学

時間とともに銀箔が錆び、写真の感光剤が色褪せ、画面上のイメージが少しずつ変化していく。それは時間の経過を可視化する装置でもある。

《RACVYOXO》は、長崎県南島原市でのリサーチをもとに制作した作品である。この地ではおよそ430年前、宣教師によって日本で初の西洋式活版印刷機が持ち込まれ、書物が刊行されたという。外国人宣教師が日本語を学ぶために、また日本人がポルトガル語に触れるために、さまざまな辞書が編まれた。『落葉集』と『日葡辞書』はその系譜を汲む書物である。

辞書は異なる言語をつなぐ道具とも考えられるだろう。ことばを文字として残すことで、私たちは過去のひとびとの思考を辿り、自らの痕跡を未来へ伝えることができる。しかし、ことばの意味は時代とともに少しずつ変化もしていく。

今回、これらの辞書から抜き出した文字に、現地で撮影した風景を重ねることで、書物に残る過去の記録と自身が滞在した現在の記憶を一つの画面に照らし合わせることを試みた。移ろうことばの意味をのせて文字が時代を伝えるように、作品もまた少しずつ姿を変えながら、未来へと手渡されていく。